

28N-am07

メンタルヘルスケア研究：唾液アミラーゼ活性による職業ストレス評価

○須磨 一夫^{1,2,3}, 高浦 佳代子^{1,5}, 井原 香名子¹, 中村 朝実¹, 小栗 一輝¹, 末元 吹季¹, 奥蘭 彰吾¹, 轟 伊佐雄⁴, 高橋 京子^{1,5} (1)阪大院薬, 2)須磨伊兵衛薬局, 3)陸自大協本部, 4)陸自中部衛, 5)阪大博)

【背景・目的】 今日、職業性ストレスのメンタルヘルスケア対策が重要視されている。過度のストレスは業務効率の低下のみならず、事故や医療ミスを惹起する。その実態の把握と緩和法の検討はリスク軽減に必須である。そこで、簡便・迅速・緊急性が求められる職場環境に適したバイオマーカーとして α -アミラーゼ(唾液アミラーゼ)に着目した。交感神経作用時、唾液に分泌されるアミラーゼは身体的・精神的ストレスで上昇する事が報告されている。今回、災害派遣や医療従事等による身体的・精神的ストレスを数値化し、飲食・喫煙行為や機具を使用しない緩和法の提案を目的とする。**【方法】** 自衛官(20~40歳 男性42名：喫煙31名、非喫煙11名)、医療関係者(20~73歳 非喫煙 男性5名、女性5名)を対象とした。業務開始前~終了間過程で被験者のアミラーゼ活性を簡易型唾液アミラーゼモニター(CM-2.1 ニプロ社製)にて測定・解析した。**【結果・考察】** 喫煙習慣は一般的なストレス緩和法の一つだが、健康被害の主原因であるため、まず禁煙ストレスを評価した。喫煙者は禁煙によりアミラーゼ活性が上昇する傾向を認めたが、非喫煙者では業務に関わらず、大きい変動はなかった。解析の結果、喫煙習慣の有無とアミラーゼ活性の変動パターンには関連があり、喫煙者は、禁煙後に喫煙を再開すると、当然アミラーゼ活性が有意に低下し、ストレス緩和を確認できる。一方、医療関係業務(4週間継続観察)において、短時間勤務の薬剤師や医療事務員では有意な変化は認められなかったが、終日勤務の薬剤師2名に有意なアミラーゼ活性の上昇を確認した。就業時間帯や業務内容等による影響因子を検証中である。現在、喫煙に代わるストレス緩和法の基礎データとして、業務中でも簡便に行える経穴(ツボ)刺激の影響について、日常業務の範囲内で経過観察している。